



## ■ はじめに

副委員長 下川 滝美

こんにちは。

副委員長の下川滝美です。

前回のブロック会議に参加してはじめて副委員長だと自覚しました。(遅すぎますね。ごめんなさい。)

昨年度まではなんとなく付いて回りでしたが今年は立場を理解して委員長を助けていきたいと思っています。

今年も一年岐阜県福祉総合相談センターで相談員としてお世話になります。

建築と福祉・医療・介護について何かありましたら相談下さい。

身障者・高齢者・精神障害なんでもOKです。お気軽にメール下さい。

☆。\*。°☆。.:\*.:☆:☆。\*.:°:☆。\*.:°☆。.:



## ■ 今回の記事

■ はじめに

■ 今後の予定・お知らせ

■ 東海北陸ブロック会女性建築士協議会  
平成17年度定例会議(後期石川会議)報告

■ 全国女性建築士連絡協議会報告

■ 見学会報告書

■ 気楽にらくだ会報告

■ 人にやさしいお店情報 2

■ ほっと・コーヒーブレイク

■ 女性委員紹介

■ 編集後記



同封資料

◆ 平成18年度年間スケジュール

☆:☆。\*.:°☆。.:\*.:☆:☆。\*.:°:☆。\*.:°☆。.:

## ■ 今後の予定・お知らせ

◆見学会

日時:5月27日(土)

対象建物:セントレア空港とINAX常滑工場

◆東海北陸女性建築士連絡協議会

日時: 6月24日(土)

場所: 静岡県

◆全国女性建築士協議会

日時: 7月21・22日(金・土)

場所: 東京

## 女性委員会だより

### ■ 東海北陸ブロック会女性建築士協議会

#### 平成17年定例会議(後期石川会議)報告

建築士会東海北陸ブロック会 女性建築士協議会

平成17年度定例会議(後期石川会議)

開催日 平成18年3月4日(土)~5日(日)

開催場所 金沢観光会館 金沢市下本多町6-27

電話:076-220-2501

#### 3月4日(土)

- ① ブロック事業発表(富山県) 演題「空き家利用について」
- ② 基調講演 講師 高橋治希 演題「トレーニング・アート」
- ③ ワークショップ
- ④ 懇親会

#### 3月5日(日)

- ① ブロック事業委員会
- ② 女性建築士協議会 定例会議
- ③ ワークショップ発表
- ④ 閉会式

#### 《東海北陸ブロック会女性建築士協議会》津川文江

17年度後期定例会議報告(参加者・・・津川、下川、長瀬)

日時 平成18年3月4日(土)~5日(日)

会場 (石川県)金沢市 金沢観光会館

3月4日(土) ブロック事業発表が行われ、富山県の『空家の利用』の発表が行われました。

その後、青年部と合流し、ワークショップにて基調講演が行われました。

講師は 高橋治希(たかはし はるき)氏で東京芸術大学大学院卒業され 現在 金沢錦丘中学校・高等学校美術教諭をされている方で 演題は、~どのように感じ どのようなかたちにするか~ でした。

金沢に秘められた2極性を考え いろいろな材料でアート作品にチャレンジしました。その後、懇親会は、金沢エクセルホテル東急にて行われ アート作品を作ったグループごとに テーブルをかこみ交流を深めて来ました。

3月5日(日)ブロック事業委員会と女性建築士協議会会

議が行われました。

前期ブロック大会は 静岡市「グランシップ」で 6月24日に行われます。

また、会議の中の意見として 後期のブロック大会では ワークショップ途中で 参加できなくなるので その後の経過がわからなく残念という声がありました。このことについては、考えてみましょうということになりました。その後、青年部とワークショップのアート作品の発表を行い ひき続き閉会式をしました。作品は3/7~3/12まで、金沢21世紀美術館に展示される予定になっております。



#### 《平成17年度後期ブロック石川大会

ワークショップに参加して。》 下川滝美

トレーニング・アート「21世紀・金沢の・・・」というテーマで金沢をインナー・ミッド・アウトに分け、その中で金沢からイメージされるテーマをグループ毎に決め 2極性をもとに作品を製作するというものでした。

金沢をよく知っている地元のメンバーと外部から来たメンバーが見た金沢のイメージをまず話し合いました。金沢は私のイメージとして伝統工芸がすばらしく和のイメージがあるのですが、一方最近新しい建物が目白押しで建てられており、いろんな意味で2極性を持っているということがわかりました。

私達のグループはこのテーマ作りでとまどってしまいました。その後作品のイメージをつけようと21世紀美術館へ見学に行っている間に製作する材料のほとんどが他のグループに先越されてしまい残り物を使うことになりました。



---

## 女性委員会だより

---

私達のテーマは「新生」で「光」と「陰」の 2 極性で作品を作り始めました。

私は「陰」を担当したのですが乱開発をイメージするということでも難しかったです。静岡と石川の青年の方と一緒に作りました。ステロールを切ったり彫ったり…。学生時代に戻ったようにみんな一生懸命作品を作っておりました。

1 日目は時間がないまま終わってしまいました。2 日目青年の皆さんは続きを作って完成させてくれていました。女性協議会が終わったところ発表が行われており途中から再度参加をしました。どのグループも作品を完成して発表もなかなかすばらしいものでした。建築家としての素質が発表の端々に見受けられとても楽しい発表でした。



### 《平成 17 年度建築士会東海北陸ブロック会

#### 女性建築士協議会ブロック事業発表について》

長瀬 八州余

平成 17 年度後期のブロック会議でのブロック事業発表は、富山県でした。

内容は『空き家利用について』というテーマでプレゼンテーション形式で発表されました。

『空き家利用』の方法については、都市型と農村型の二通りの方法が提案されました。

#### 1) 都市型の空き家利用について

都市型の空き家利用については、デイサービスとしての利用ということでした。このデイサービスについては、赤ちゃんからお年寄りまで、障害の有無に関わらず、誰でもが一緒に身近な地域でデイサービスを受けられる場所として、「富山型デイサービ

ス」という考え方のもといくつかの施設がつくられています。これは「富山型デイサービス」として、富山から全国に発信した、新しい形の福祉サービスです。特徴は、「障害の種類や年齢を超えて一つの事業所でサービスを提供する」ということと、縦割りの行政の壁を打破った、日本で初めての柔軟な補助金の出し方であり、これらは「富山方式」、「富山型」と呼ばれるようになりました。

事例として、二つあり、一つは生活リハビリ型で、施設としては『憩い乃家 まごの手』という建物があります。いろいろは工夫をして最小の改築で対応するという考えのもと造られています。二つめはバリアフリー型で、施設としては『このゆびと一まれ茶屋』という建物で、必要なら徹底して増改築を施して利用するという考えのもと造られています。この二つの施設の説明があり、段差をどのように考えて、あえて残すのか、取り払ってしまうのか、通路幅をどのように確保するのかなど、いろいろな工夫がしてありました。また浴槽などは、利用者が使いやすいように手摺が何本も付いていました。

#### 2) 農村型の空き家利用について

農村型については、地域でのコミュニティーの場を提供する拠点として利用することが特徴で、今回は、森満理さんのおじいさんの残された伝統的家屋(アズマダチ)を地域でのコミュニティーの場として使われている様子の報告がありました。今では約 100 家族の会員がおり、いろいろなイベントをおこなっています。

個々の建物についての利用法と言うよりも、地域の人々と空き家との関係の報告であったように思いました。ただ、いろいろな事が網羅されすぎていて、1 時間の説明では短かったように感じられました。

全体の総括として、「空き家の活用を学習するうちに、これは高齢化問題・環境問題になっていると感じました」と締めくくられました。



## 女性委員会だより

### ■ 全国女性建築士連絡協議会報告

#### 平成 17 年全国女性建築士連絡協議会委員長会報告

日時 平成 17 年 12 月 2 日(金)12:00～13:30

場所 香川高松市 サンポートホール高松

#### 報告事項

◎ 第 48 回建築士会全国大会 愛知大会

\* テーマ「自然の恵みを暮らしの中に」  
一般も含めてワークショップに 108 名の参加でした。

◎ 第 49 回建築士会全国大会 栃木大会

\* 平成 18 年 10 月 20 日(金) 建築士 5 月号に内容を載せます。

◎ 平成 18 年全国女子建築士連絡協議会

\* 平成 18 年 7 月 21・22 日 (東京)



#### 《平成 17 年度全国女性建築士連絡協議会

#### 「地域と共生する住環境づくり」

#### ～身近な素材を未来へつなぐ～

下川滝美

身近な素材ということで講演会は「そこにある石と稲藁から生まれる土佐漆喰」と題して中脇さんから始まりました。現在は指導者である方ですが元は大工であったということから職人らしいお話が聞けました。技術と素材をいかに伝承していくかの難しさを講演されました。土佐漆喰は四国村で見ることができました。次に「木と家の会」代表の戸塚さん。設計士であることから



か気難しい感じの方でした木を使い木を生かした家作りをパワーポイントで説明していただきました。すっきりとしたデザインが印象的でした。シンポジウムでは最後までコーディネーターを悩ませていました。

「菊間瓦」について津田さんの講演。職人・親方という感じで淡々とお話をされました。シンポジウムでは青年部の方と替わられました。またその方も「鬼瓦士」としてのこだわり・誇りを持ち仕事をされており魅力的でした。

最後は阿南竹炭生産組合の岡川さん。若き頃の舟木和夫という感じの方でした。

竹しかないから竹があるからと竹を活かした商品の開発には思わず眠気もとんでしまうお話でした。竹の効能についてとても詳しく宣伝されました。驚いたのは金閣寺・銀閣寺での竹の利用です。湿気にとっても効果があることが科学的にも立証されております。とても興味深い講演でした。4名が講演された後シンポジウムがはじまりました。コーディネーターは趣味がケーキ研究という徳島大学助手の三宅正弘さんでした。かなりメディアに出ておられる方で楽しいお話が聞けましたが職人さん方との絡みは軽すぎたように思いました。



---

## 女性委員会だより

---

学生と共に石積みを伝承して行こうと頑張っている姿をテレビでも放映されておりました。

形は違いますが地場産業を大切に、技術を伝えたいという気持ちが5名の方から感じることができました。住んでいる地域の素材をもう一度見直してみようという気持ちが会場のみなさんも一緒に共感したのではないかと感じました。



### 《平成17年全国女性建築士連絡協議会に参加して》

長瀬 八州余

12月2日、新幹線のホームで待ち合わせ、3人で高松へ向かいます。お天気は曇り空です。名古屋からは約3時間で高松に到着です。

高松駅の真ん前に、会場の「サンポートホール高松」がそびえていました。荷物を会場のクロークに預けます。委員長は12時からの全国女性部会長(委員長)会議があるのでそれに参加されます。残りの私たち2名は、栗林公園へと向かいます。JR 四国の電車に乗りましたが、トイレが車いす対応の車両です。私は初めて見ました。



栗林公園は、車いすコースという表示があり、段差のないコースが用意されていました。それと本当にトイレがいたるところに有ります。それも多目的トイレが併設されています。途中で雨が降り出しました。敷き石の道では滑りそうで怖かったです。お年寄りにはより大変だと思いました。紅葉が今年は遅いとかで、12月でもきれいで良かったです。



2時から開会式が始まり、主催挨拶(日本建築士会連合会副会長)梅村俊比古氏、歓迎挨拶(香川県建築士会長)川井稔氏、来賓挨拶(香川県副知事)北川文夫氏、委員長挨拶(日本建築士会連合会女性委員長)宮本伸子氏と続きました。構造計算偽造問題が話題になっているので、NHKと四国テレビの取材が来ていました。

シンポジウムは、パネリストとして中脇修身氏(高知県・土佐漆喰)戸塚元雄氏(香川県・木の家)津田光利氏(愛媛県・菊間瓦)菊池陽一郎氏(愛媛県・菊間瓦)岡川雄洋氏(徳島県・竹炭)の各々の説明が有り、その後コーディネーターの三宅正弘氏(徳島県・地域計画家)を交えて行われました。会場を「第1小ホール」から「第2小ホール」へ移して、ピアノ生演奏が流れる中、懇親会が行われました。こうした時にもっと積極的に、他の地域の方と交流を持たないとだめだとは思いますが、角の方でかたまっていました。

ホテルは駅からすぐの所にあつたのですが、近道に気がつかずに少し時間がかかりました。

二日目の天気は晴天で、風は強かったです。朝9時から分科会です。津川(建築物の再生活用)下川(高齢社会)長瀬(健康住宅)に分かれて各々参加です。

11時15分から閉会式が行われました。今回の全建女の参加者数は277名という発表でした。

各分科会司会者から分科会の報告が行われ、全体総評が連合会女性副委員長の小野全子氏よりあり、今

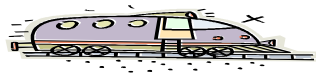
## 女性委員会だより

回のアンケートの報告が連合会女性委員長の宮本伸子氏よりありました。

午後の見学会では、『民家の博物館「四国村」と手打ちうどん』というコースに岐阜県の3名は申し込んでいました。名簿上の参加者は41名です。みんなで集まって、琴電に乗って瓦町駅で乗り換えて屋島まで行きませす。瓦町駅は動く歩道がありました。

民家の博物館「四国村」入り口前の「わら家」で昼食です。お腹が一杯になったところで、「四国村」の散策です。まずは吊り橋を渡ります。結構恐ろしいです。じっくり見ると時間がかかるとは思いますが、帰りの時間を気にしながらなので、結構忙しかったです。四国村の中には安藤忠雄氏設計の美術館があり、おトイレだけを借りました。コンクリート打ち放し仕上げで、多目的トイレの照明は感知式でしたが、扉の開閉は重たかったです。

津川さんとは、高松駅で別れて、下川さんと二人で帰ります。



### 《D分科会 テーマ「建築物の再生利用」》

津川 文江

#### \* 職人集団による家づくりを

#### 「古民家再生」で地域に発信 ～ 鹿児島県建築士会

南薩支部と女性部会会員とが、地域交流していく中で、古民家を職人手作りで健康住宅へ再生した活動紹介でした。

南薩地域一帯の、武家屋敷跡で古い民家が次々取り壊され、後5件くらいしか残っていないそうです。

古いものは再生か、壊して新しく建て替えるかの2点で、なかなか再生するのはむずかしいそうです。

この報告は何とか、古民家を再生して残せないかと職人手作りの健康住宅で直営方式の 自然素材による健康住宅を施主に提案し話し合いを重ね再生へつなげた事例です。

築135年の古民家で、木造平屋建て床面積135.27㎡  
費用 1400万円

職人は、気心の知れている人達で、予算よりも遣り甲斐を重視してくれたそうです。

活動の成果として、地域住民の反応が大きく、完成の見学会は、地域住民と若い学生とのコラボで、古民家と、ネイルアート・絵画・リサイクルバザー等いろいろな方面へ展開し大きな盛り上がりで活気を収めたそうです。

全国的にどこでも、ハウスメーカーの住宅が建築される中、地域業者の在来木造建築が地域出身者にとっての住文化になりうるということを見出したそうです。

#### \* 貸家からスタートした老人介護施設

#### 『のぞみ』ホーム ～ 栃木建築士会

築30年の民家を増改築し、デイサービスセンター「のぞみホーム」へ再生させ、更に隣接地の住宅を増改築し、グループホーム併用とした。のぞみホームの10年間の建物の変遷とその間に突き当たったさまざまな問題をどうクリアーしていったか、を説明されました。

1993年7月 認知症の妻を介護している夫の所有する貸家を利用し、ボランティアの助けを借りながらデイサービスを開始する。築30年の貸家：木造平屋建て 3DK 床面積 13.5坪

1997年5月 県の事業「高齢者デイホーム事業」を受託。隣接する貸家をつなぎ増築 床面積 12.5坪

2000年1月 県の「デイサービスセンター整備促進事業」として改修工事に着手。補助金 1200万+α 総工費 1720万円

木造平屋建て：床面積 57坪

増改築・用途変更(児童福祉施設等 老人デイサービスセンター)

設計のポイント：バリアフリー・内部壁杉ムク板・ペアガラス・床暖房：スタッフの目が届くように寝室以外死角を作らない

---

## 女性委員会だより

---

2000年6月「のぞみにどうしてもすみたい」人出現。

よって増築 最終床面積:60坪

2002年10月隣地にグループホーム建設工事着手

補助金なし 総工費 2200万円

設計のポイント:自然素材・ユニバーサル  
デザイン・床暖房

このように、貸家から成り行き上 老人ホームになった10年間の変遷を述べられました。また、本当の介護とは、何かを考えさせられたそうです。

そして福祉の資料として、テレビでも放映された「のぞみホームの静かな力」という感動の書籍があるそうです。インターネットで検索してみてください。



### 《「G分科会」高齢社会》

下川 滝美

コメンテーターは北海道士会と大阪士会。司会進行は神奈川士会でした。

北海道は士会で住宅改造マニュアルを作成しているほど活動は活発のようです。

マニュアルは各種の講習会でテキストになっておりZIGというわれる在宅支援技術者協議会もあり他の職種との連携もしっかりととれています。

昨年に続き大阪もテキストを改正するなどして継続的に活動をしています。

大阪はボランティアではなくしっかりと相談料を頂いて仕事をしています。

参加士会の相談活動がみんなボランティアだと言っている中で、さすが大阪という声があちこちから聞こえました。

神奈川は公の地場の上でPT・OTなど他職種と、対等な立場で連携をとり活動をしています。岐阜の場合に近いと感じました。

また、住宅改修の相談活動のきっかけは、士会のメンバーにヘルパー資格者がいたり、リフォーム会社の方がいたのが「きっかけ」という所が多いようです。それが女性部会にまで巻き込んで現在に至っているという形が多いように思いました。

議論は相談業務の責任問題です。

個人で答えて良いのか。士会のみんなに相談するの  
か？

結論は個人の力量・モラルの中で答えられることは答える。

わからないことや他職種との兼ね合いの面では電話番号を教えるなど窓口の役目でも十分ではないか。また困難な事例はやはり現場を他職種と一緒に訪問して連携をとらないと解決できないという意見が多く、今私が岐阜県でやっている広域支援事業に似た形態で他の地域も活動をしているのだと嬉しく思いました。

今後、岐阜県としては、女性委員会として、建築士会としてどのように活動をしていくかを考えてみたいと思  
いました。

### 《分科会「健康住宅」に参加して》

長瀬 八州余

昨年同様、同じ分科会「健康住宅」に参加させていただきました。

コメンテーターは、星ひとみ氏(宮城士会)、坂本浩子氏(広島士会)の2名の方の発表があり、その後意見交換がありました。

星ひとみ氏からは、いろいろはデーターのプリントをいただきました。

- 1、「木が薬剤処理されていること」について
- 2、アセトアルデヒドの指針値問題のことの発端
- 3、池田耕一氏(国立保険医療科学院)の見解
- 4、コリンエステラーゼを阻害する科学物質(殺虫剤等)
- 5、シックハウス症候群・化学物質過敏症の自己診断  
シックハウスに対するアンケート調査をいただきました。患者さんのデーターはそこそこ集まってきているの

---

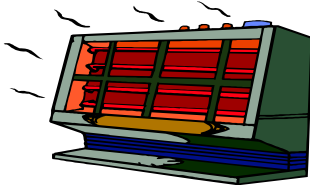
## 女性委員会だより

---

ですが、健康であると思っている人のデータが少ないので、それを集めていると言う説明でした。そのアンケート資料は、自己診断ができるので、住宅を建てようと思っている人等に対して、今後の業務に使えるので、コピーを取ってご使用下さいと言うことでした。

坂本浩子氏は、工務店をご主人とやっていて、自宅とモデルハウスを建てられて、それに基づいての発表でした。

「夢ハウス」の乾燥材「ドライ・ランバー」を使い、仕上げ材に珪藻土を使用し、GEO パワーシステム(室温調整・湿度調整・イオンバランス調整・空気清浄・換気の五つの機能を地中熱エネルギーの利用を柱として全自動で管理・運転を行うエアサイクルシステム)、ソーラーシステムの床暖房(深夜電気を利用?)、蓄熱式暖房器を使用、サッシュのメーカーは YKK で仕様は内側樹脂、外側アルミ、空気層12ミリのペアガラス等で生活をいっていると言うことで説明をされました。



風邪をひかなくなり、室内の空気がきれいになり、鼻の中がきれいになったと話して下しました。

配布されたプリントだけでは、全体像がわかりずらかったです。

二人の方の発表が終わり質疑等を行う中で、いろいろな意見、経験談等が出て、いろいろと勉強になりました。

珪藻土について、何%の割合なのかという質疑で、ほとんど100パーセントで、スサ・ふのり・海草のり等を使っている。最初は伸びないので大変でしたが、職人さんもいろいろ工夫をして、今では、薄く塗ることができるようになりましたとのことでした。オール電化の話になり、高知県の場合新築では今8割方オール電化住宅になっている。それを受けて、電気だけでは停電になると北海道なんかは、冬場だと大変なことになるか

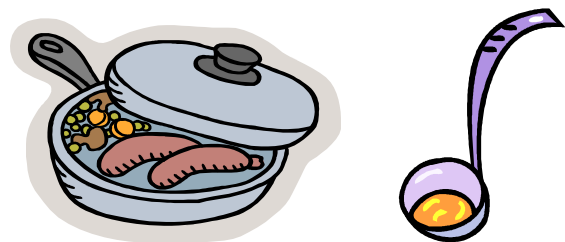
ら、バックアップを何か考えておかないといけないということでした。ガスのエコキュートは設備費が高いからなかなか使ってもらえない。エネルギー源として何を使用するか、電気・ガス・天然ガス、どれが環境に良いのかを考えていかななくてはならないのではないかと。

電気の話から電磁波の話になり、日本は電力会社の力が強いので、電磁波の正しい情報がなかなか入手できない。電気を使用しないで生活をしていくことは考えにくいので、これからは使い方を検証していく必要があるのではないかと。

健康住宅を考えて、素材を選ぶとどうしても坪65万円ぐらいになってしまい、家を建てたい若い人ではなかなか手が出ない金額になる。しかし普通に流通している建材でも、注意深く施工すれば、坪45万円でもできないことはない。現場では必ず窓を開ける。今はメーカーから直接現場に発送されるので良くなってきているが、素材を保管する時は、できるだけ他のものと混ざらないようにする等。引き渡し前に、検査をすると化学物質の数値はクリアしている。危険ということを知った上で使い方を考えて、バランスの取り方を検討して行く必要がある。

検査の値段が問題になり、北海道は保健所で8物質測定をしてくれるのだそうです。地域ごとにいろいろと対応が異なる事を知りました。

その他いろいろは話が出て、時間がすぐに過ぎてしまいました。





■ 見学会報告書

《各務原市営斎場見学報告》

河内 美代子

各務原市建築指導課の小林申野様にお世話いただき、5月完成を目指し現在建築中の市営斎場を見学することができました。当日は30名弱の参加があり、現場小屋は超満員状態でした。始めに伊東豊雄事務所の方から設計の経緯や苦労したポイントなどについて配布いただいた図面で説明を受け、その後、参加者からの多くの質問も受けられました。

次に現場の所長さんから現場で工夫・苦労した点などについてお聞きした後、現場見学を行いました。現場にはモックアップが作っており、色々検証しながら進めておられることがよくわかりました。シェル構造の屋根に上がると、各務原の緑(冬なのでちょっと想像しながら)や遠くの山々に囲まれたロケーションに驚きの声が上がりました。地域環境と用途に一番ふさわしい形に設計され、その施工には気の遠くなるような努力と苦労があるのを知って、歴史に残っていく建築というものは偶然ではできないということを実感しました。そして現場の所長さんの一生懸命な顔を持って仕事に当たっているという生き生きとした顔が印象に残りました。



《各務原市営斎場と旧川上別荘「晩松園」の見学会に参加して》

飯沼 あい子

1月30日午前10時より市内別荘「晩松園」にある市営斎場の現場見学会が行われました。女性委員会主催ですが、土会会員の方々や学生の皆さん、興味をお持ちの方も含め27名が参加しました。この建物の特徴はなんと言ってもRCのシェル屋根の集合体です。工期のタイミングが良く屋根スラブに登ることができました。しかし、コンピューターでの解析が出来なければこの形は無理だろうと思いつつ、かつて三半規管を混乱させながら登ったある観光地を思い出していました。完成時には、トイレウォッチングも合わせた続編をと思っています。次に、市内鶴沼にある旧川上別荘見学に移りました。(1933年建築数寄屋造り風木造 580㎡)隣接する写真館・レストランの経営者の所有で修復保存がなされ、国の登録文化財に指定されました。(今年2月より週1回公開予定)レストランで久しぶりに?豪華なランチで寛いだ後、係の方に邸内を案内していただきました。一言で表すと「麗」今迄に訪れたことのある旧邸では、内外共に素材や形等が統一された美が一般的でしたが、ここは造作材を桐、松、栗、杉など天井意匠も竿縁、網代、突板、茅葺表わしなどが、部屋毎に統一感を持って使われており、引手の装飾、襖の山水画、障子の棧、電燈の笠こいたるまで、実に細やかな配慮がなされていました。建築主の川上貞奴(明治4年生まれ日本の女優第一号)が東京から腕の良い大工を呼んで造らせたといわれていますが、彼女の指示が建具の引き手にまで及んでいたとすれば、まさに優れた財力を持つデザイナーと言えるでしょう。外に出て、鉄製の日本瓦と七福神の鬼瓦に止めを刺された思いで、岐路に就きました。コンピューターのお蔭でできたシェル屋根と人の手になる木造、新旧の建物に遭遇できた貴重な見学会でした。改めてこの見学会開催にお力をいただきました皆様ご感謝いたします。



## 女性委員会だより

### 《アスベスト・耐火建材・調湿建材に関するセミナー 及び工場見学会の報告》 河内 美代子

平成17年9月21日(水)に㈱日本インシュレーションさんの協力でセミナー及び見学会を開催しました。

アスベスト問題の現状と対応及び、マドリード 32 階建て高層ビル火災を実例にとった耐火建材の話聞いた後、商品 PR センター及び中央技術研究所で、多くの実物展示や耐火実験を見る事も出来ました。

石綿関連ブース(石綿の分析調査～除去工事までの流れの展示紹介)  
プラダブティック青山店のひし型ブレース(実物大模型)高さ 7m, 直径 1mの丸柱(セントレア国際空港で使用した実物大模型)燃えやすい和室を火災から守る不燃建材の使用例をご覧ください

各種不燃建材の焼成急冷実験(ゾノライト建材のもつ耐火性、1000℃での焼成急冷実験)昼食後、三重県北勢工場へ移動し、瑞穂市の工場より大型で無人化された工場と調湿性の実証実験(大型恒温恒湿室での結露条件を再現し、調湿建材の結露抑制効果実験)を見学しました。

長い一日でしたが、話を聞いただけのセミナーと違い、実際に目で見得る見学会はとても勉強になったのではないかと思います。また、このような機会には是非、1人でも多くの方が参加できるように企画をしていきたいと思っています。



### ■ 気楽にらくだ会報告

日時: 平成 18 年 2 月 25 日(土)

会場: 岐阜市六条南 ナショナルリビングプラザ研修室

内容: 午前の部 講習会「照明」

午後の部 「キッチン」講習と最新情報

岐阜女子大の学生、インテリアコーディネーターの人、男性など 15 名の参加がありました。

皆、真剣に聞いていました。



キッチンセミナーの様子



交流会お弁当を食べながら



ちょっと、ケーキもできましたよ

## 女性委員会だより

### ■ 人にやさしいお店情報 (2)

下川さんから頂いたバリアフリー情報(飲食店)の前号からの続きです。実際に利用された方々の体験からのレポートです。

#### 30代男性からの情報(続き)

■あとは、施設自体が比較的バリアフリーな商業施設の飲食店を利用する方が何かと便利です。

たとえば

「カラフルタウン」 「ダイヤモンドシティ」

「イオンタウン」 「ロックタウン」 など。

個人的には、カラフルタウンのフレッシュネスバーガーがお勧めです。モスバーガーよりも食べやすく、モスバーガーのように食材に気を遣っており、しかも惜美味しい。そしてモスバーガーにはない「ビール(ミラー)」が置いてあります。

屋号のとおり「フレッシュ」が売りのおいしいハンバーガー屋です。

昔は行く先の設備がとても気になりました。今はほとんど気にしていません。以前は入れるお店だから出かけていました。

今は、食べたいものがある店だから行くことにしています。

ここ数年はバリアフリーというキーワードが浸透し、それなりにお店側も気を遣ってくれます。

ですので、手助けがあっても入店が不可能な場合を除けば、事前の確認をとることで、大概のお店は快く入店の手伝いをしてくれますし、テーブル・イスのアレンジもしてくれます。店員もとても気遣ってくれます。ですので、(トイレの都合でそれほど長居できないのは難点ですが)ここ最近では食事に出かけるときにバリアを感じません。

店の設備が整っているのがベストですが、そうでない場合でも、利用する側のちょっとした働きかけで利用できる店というのはグッと増えると確信しています。

「事前に電話で確認する」これさえ怠らなければ大概のバリアは解消されます。



#### 30代女性

■私はほとんど外食をしないので、あまりお店は知らないのですが、入っている NPO のメンバーたちとたまに行くのは、六条のつぼ八です。

トイレは狭いけど、車椅子でぎりぎり入れて、手すりがついています。入り口にはスロープがあり身障者用駐車場もあります。ただ扉が引き戸なんですけど…一階が広いので団体で行っても大丈夫です。味は、普通のつぼ八ですねえ。

岐南町にあるイタリアンレストラン、ピッツェリア・ポポロッソは、トイレも広く、入り口のスロープもあり、おいしいです。

マーサ 21 にあるパステル(パスタ)も、使いやすいです。入り口は開き戸ですが、店員が開けてくれます。トイレもあります。味は濃い目ですが、チェーン店としてはおいしいと思います。

3 つほど書きました。自分で思うのは、和食のお店ってお座敷ばかりで、車椅子では行くのが不便なところが多いです。

焼肉屋さんや、鉄板焼きの店も。年齢が上だと、食べたいのはあっさりしたものなんですよね。なかなか行きやすいお店がありません。

#### 岐阜市障害者生活支援センター 日井様

■私は、あまり外食はしないので、あまり情報は持っていませんが、正直言って満足できるようなお店はありませんでした。ですからお勧め情報はありませんが、岐阜駅のアクティブGや、東側のアスティのお店は、車いすで何とか入れます。(全部ではありません。) 通路が狭いのが欠点です。しかもセルフサービス方式が多いので車いす利用者には、注文品を持って運ぶのに困ります。店員さんが、椅子をどけてくれたり運んでくれたりしてくれるところもありましたが…。トイレは、店外が利用できますが、アクティブのトイレは狭く使い勝手が悪い物ばかりです。無いよりはましと言ったところですが。飲食店は、ほとんど通路が狭く移動が大変です。何とかテーブルにたどり着けてもトイレがないところが多いので不満はありながらも我慢で乗り切ることになっています。新しくできたファミリーレストランは、設備が整っているようですが、行ったことがないので提供できる物はありません。

## 女性委員会だより

### ■ ほっとコーヒーブレイク



#### ◆ ゴーヤ顛末記

小林 教子

昨年全国大会でセッション2「自然の恵みを暮らしの中へ」に参加し、緑の断熱効果を知った私は、さっそく我が家の2階のベランダに緑のカーテンを作ることになりました。

苗の選定は、園芸に造詣の深い？夫に頼んだところ、定期的に遅かったので、ゴーヤ・ツルムラサキ・あさがお・ゆうがおといったものを買ってきてくれました。1階の地面にゴーヤを植え2階のベランダの手すりまで園芸ネットを張り巡らして、和室西側の窓の日よけにし、2階はプランターにツルムラサキ・あさがお・ゆうがおを植えやはり園芸ネットを張りました。

梅雨もあけ苗はどんどん大きくなるかと思いきや、あさがおはやはり定期的に遅すぎたようで大きくもならず、花はとうとう咲きませんでした。ゆうがおも3つほど花をつけましたがやはりさほど大きくならずじつ終わってしまいました。それに比べ、ツルムラサキとゴーヤはどんどんと育ち、特にゴーヤのほうは地面に植えたおかげでしょうか、ベランダの手すりを超え、アサガオたちのための園芸ネットを横断して、とうとう2階の底まで達したのです。

ツルムラサキも軒までは達しましたがさほど茂りませんので、カーテンには不向きです。ちなみに食用となるそうですが、青臭さと紫色の実の汁が結構くせもので、お勧めできません。

さてゴーヤですが、結論を言いますと大変お勧めの植物です。葉は良く茂り、花はよい香りがし、10月末まで実が収穫でき、最終的に3本の苗から計100個近い実がとれました。これはびっくりです。また、肝心のカーテンの断熱効果ですが、直射日光を良くさえぎり、大変暑かった夏としてはそのすごさを感じさせなかったような気がします。

もう一つ、ゴーヤは今ひとつ苦手だったのですが、あまりの収穫量に皆さんにもらって頂いても追いつかず、やむなく料理をして食べることで、少しずつ食べられるようになり、レパートリーも広がったような気がします。その一つゴーヤの佃煮は簡単にご飯に合うので紹介します。

ゴーヤは半割にして種と綿を取り薄くスライスした後さっとゆがきます。その後醤油、砂糖、みりん、酒で好みの味がけにして汁がなくなるまで煮付け最後に好みでカツオを入れて出来上がりです。おためしあれ。☆☆☆

### ■ 女性委員紹介

◆ 女性委員会の委員を1~2人自己紹介形式で紹介していきます。

今回は子育てが一段落して委員会に復帰の高野さんです。

名前：高野栄子(36歳)勤務：不破郡関ヶ原町  
コーエイ設計室

趣味：旅行(夫と子供3歳と5歳をつれて家族旅行です。)

その他：子供が成長しやっと少し時間が出来ました。出来るだけ会の活動に参加したいと思っています。



### ■ 編集後記

遅くなりましたが第3号をお届けします。編集の怠慢で出すタイミングが遅くなったので相も変わらず盛りだくさんの内容です。今回はお寄せいただいた記事を全部載せました。おなかいっぱいになること請け合いですのでお楽しみください。

今年度は3回出すよう頑張りますので、皆さんからの投稿をお待ちしております。特に「ほっと・コーヒーブレイク」のコーナーは、お役立ち情報、新築建物紹介をはじめ検証報告何でもOKです。

なお、編集参加問い合わせ、ご意見・投稿・新企画などがございましたら、下記へお寄せください。

編集委員

(社)岐阜県建築士会

岐阜市司町1番地 岐阜総合庁舎3階

TEL 058-266-5786 FAX 058-266-6867

<http://homepage2.nifty.com/aba-gifu/>

Eメールアドレス [kensi578@juno.ocn.ne.jp](mailto:kensi578@juno.ocn.ne.jp)

※ 女性委員会担当まで宜しくお願い致します